

## 玉井村 山入の戦い — 会津戦争 最前線 —

大玉地域の戊辰戦争については、近世史研究者の渡辺敬太郎氏や菅野与氏等の研究等に従って戦いの経過を追う。

中通りから会津に通じる街道の一つに、玉井から石筵を経て母成峠へと向かう道がある。戊辰戦争で西軍は、戦略上この道を重要な会津侵攻ルートとした。

東軍は、西軍迎撃のために、母成峠に陣地を築き、旧幕府軍（大島圭介の幕府伝習二大隊、丹羽丹波の二本松二小隊、田中源之進の会津二小隊、仙台三小隊）が防備を固めた。その防衛最前線基地として玉井山入地区にも兵を進め布陣した。

8月20日朝から、二本松城下及び本宮村の西軍2,000余名は、櫛山や下大江村（いずれも大玉村大山）の方向から玉井方面へ軍を進めた。宮ノ前、山崎、大橋等を経て、玉井山入地区へ進んだ。

西軍は、大きく4つの部隊に別けて兵を進めた。その1は、安達太良川支流寺沢川を進んだ一隊。黒沢地区後方で東軍を破り、西ノ内地区で東軍を攻めた。また、安達太良川を進んだ一隊は、宇津野地区から東軍陣地の前面に出た。その2は、本揃、小菅と進軍した。東軍の伏兵を疑って、小菅の高台の正福寺に銃撃を加えた。その3は、長峰から間黒そして坂下へ向かった。坂下は、石筵村（郡山市熱海町）に通じる関門であり、同村は会津への入口、母成峠のふもとにある村である。その4は、大砲隊である。天王下から西の東軍陣地に砲撃を加えた。



西軍進軍路 玉井字江田付近

これらの西軍と守備する東軍との間で激しい戦いが行われた。

土佐藩は、手志子森（大玉村玉井字瀬戸原・シタ林付近）陣地の後方に回り込み、攻撃をした。東軍は、西軍に挟撃されて混乱し母成峠方面へ敗走した。午後4時頃という。

ここに、玉井山入の戦いは、東軍敗戦によって終結する。

翌8月21日。土佐の谷干城、長州の祖父江可成率いる長州・土佐兵1,000名程、土佐の板垣退助、薩摩の伊知地正治率いる薩摩・長州・土佐・佐土原兵1,300名程。川村純義率いる薩摩・大垣兵300名程が、母成峠に通じる石筵村へと向かった。西軍は、この日母成峠で東軍を破り、会津領へ侵入した。

## 山入の戦いの戦没者と村人たち ～村指定史跡～ — 戦死三十一人墓 —

西軍の会津攻撃は、8月20日決行となり、その緒戦ともいえる、玉井山入の戦いでは、東・西両軍が激戦を展開し、両軍に多くの戦死者が出た。

山入の戦いで戦死した東軍兵士（幕臣、二本松藩兵、会津藩兵、旧幕府の雇兵たち）を、地元の玉井村山入の人たちが、玉井村権現目墓地に手厚く埋葬したのが戦死三十一人墓である。

### その時の村の人々

いわれなき戦争災害に見舞われたふるさとの先人たちは、「山入の戦い」前後に、どのような状況にあり、またどのように行動したかを見てみる。

村の古老によれば、安政年間生まれで昭和15年に86歳で逝去した曾祖母は、当時の西軍の非道な行いゆえに、「おれらは頭の毛を剃って、顔に鍋炭をぬって裏の山にかくっ居たんだ。」と語っていたとのことである。

その他、次のようなことがあったと伝わる。

- 村の娘たちを一か所に集めて隠し、危害が及ぶのを防いだ。
- 村人も、西軍が攻めてきた午前11時頃には近在に逃れ、家族の安全を守った。
- 寺院や村役人宅は、西軍諸藩の本陣となり、農家は兵士の宿所となった。
- 西軍の食料調達によって、一時期、村内に鶏が一只もいなくなった。
- 玉井村下町地区の農家2軒が西軍兵に放火され、焼失した。
- 二本松藩の軍夫として徴発された村人3名が戦死した。亀吉は、上大江村（大玉村大山）から徴発され7月26日小野仁井町（小野新町）の戦いで戦死した。惣七は、玉井村より徴発され、7月27日の隼沢村（本宮市白沢）の戦いで戦死した。惣八は、櫛山村から徴発され、7月29日二本松城下の戦闘で戦死した。
- 西軍の軍夫として、多くの村人が母成峠から猪苗代、会津城下まで従軍した。
- 打ちこわしが、郡山や安達郡内各地で発生した。8月11日、玉井村も騒ぎとなり、大江村役宅の家財を持ち出して焼いたとされる。

編集 大玉村教育委員会教育部  
生涯学習課 文化振興係

〒969-1302 大玉村玉井字西庵183  
TEL 0243-48-3139 FAX 0243-48-3493

# ふるさとの慶応四年

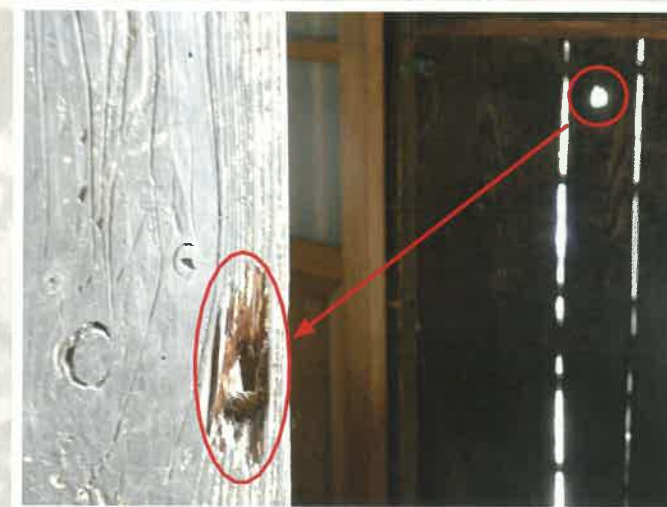
## ～ 戊辰戦争から150年 ～



玉井「山入の戦い」の地（手志子森伝習隊陣地跡）



戦没者を手厚く埋葬したふるさとの人々の心が伝わる「戦死三十一人墓」（村指定史跡）



銃弾の貫通痕のある柱（正福寺）



# 戊辰戦争 新政府軍 みちのくへ侵攻

東北とその玄関口である福島県の歴史の中で、当地方が戦場や歴史の分岐点となったことが幾度かある。一度目は、坂上田村麻呂の侵攻、二度目は、源頼朝の侵攻（阿津賀志山の戦い）、三度目は、豊臣秀吉の奥羽仕置き、さらに、四度目は、薩摩・長州等（新政府軍）の侵攻である。

江戸幕府が大政奉還した後、慶応4年（1868）1月3日の鳥羽伏見の戦いに始まる我が国の内乱は、東日本各地に及んだ。特に、奥羽越（東北及び新潟）及び蝦夷地（北海道）の人々は激しい戦火の嵐に巻き込まれた。

大玉地域でも玉井村（大玉村玉井）の山入（大玉村南西部）にて、旧幕府軍（東軍）と会津に侵攻しようとする新政府軍（西軍）が戦闘に及んだ。

慶応4年（1868）8月20日のことである。  
ここに至る、歴史の概略を振り返っておく。

- ◎文久2年（1862）8月1日 会津藩主松平容保、京都守護職に就任
- ◎慶応3年（1867）10月13日 大政奉還
- ◎慶応4年（1868）
  - 1月3日 鳥羽伏見の戦い
  - 4月11日 江戸城開城
  - 閏4月22日 奥羽列藩同盟
  - 5月1日 白河城落城
  - 5月6日 奥羽越列藩同盟
  - 6月24日 棚倉城落城
  - 7月13日 平城落城
  - 7月26日 三春城帰順・開城
  - 7月28日 本宮の戦い
  - 7月29日 二本松少年隊奮戦、二本松城落城
  - ◇8月20日 玉井村山入の戦い
  - 8月21日 母成峠の戦い
  - 8月23日 会津白虎隊奮戦、飯盛山で自刃
- ◎明治元年（1868）
  - 9月8日 「明治」と改元
  - 9月22日 1ヶ月余の籠城の後、会津藩降伏

## 福島県 安達郡 大玉村管内図

(玉井、山入の戦い要図 渡辺敬太郎原図より)

**戦死三十一人墓 (村史跡)**

戊辰戦争 山入の戦い（大玉村 南西部）で戦死した東軍兵士31名の墓である。山入地区で戦闘があったことを示すとともに、山入地区住民が、この戦闘において亡くなった東軍兵士を手厚く葬ったことがわかる貴重な遺跡である。

**佐藤文内の墓**

薩摩藩二番隊大砲方教導軍夫として徴発され10月11日若松城下で死去、大山草津川旧墓地に埋葬された。行年47歳。

**木幡孝之助の墓**

薩摩藩に木幡村（二本松市）より軍夫として徴発され8月23日若松城下の戦争で戦死、玉井江田地区の旧墓地に埋葬された。行年25歳。

**正福寺**

城守山正福寺は、永禄元年（1558）実弁により玉井宇山城に開創し、宝永5年（1708）法印義道法師が現在の地に再興した。

**二本松少年隊久保兄弟の墓**

兄鉄次郎は本宮村の戦争で傷を負い、大壇口（二本松市向原）に出陣後西軍の野戦病院であった薩摩藩本陣の玉泉寺に収容され、明治元年12月6日死去、行年15歳。弟豊三郎は大壇口で傷を負いながら隊士数名と会津に向い、傷の療養後米沢に向う折、体調に異変を感じ同病院に収容され明治元年11月11日死去、行年12歳。兄弟はともに埋葬された。

**吉村熊之助の墓**

長州藩装束銃足軽第一大隊、8月20日午後4時頃玉井村宇津野地区で戦死、玉泉寺旧墓地に埋葬された。行年21歳。

**玉泉寺**

瑞龍山玉泉寺は、享禄2年（1529）大河内日向守開基とし、利宵厳益和尚開山と考えられている。境内には、二本松少年隊久保兄弟の墓、吉村熊之助の墓がある。

**相応寺**

安達太良山通明院相応寺は、法相宗の僧「徳一大師」によって安達太良山麓の眉岳（前ヶ岳）に大同2年（807）に建立されたと伝えられる。眉岳は高山のため野火を防げず、度々炎上し荒廃したため亀山（玉井宇西ノ内）へ、その後、永禄3年（1560）に現在地へ移った。相応寺第40世隆栄、第41世信昆は、戦死三十一人墓建立の発起人として名を連ねている。



西ノ内を南東から望む